

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：12401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520153

研究課題名(和文)中国現代アートにおける政治性

研究課題名(英文)Politic of the Chinese contemporary Art

研究代表者

牧 陽一(MAKI, Yoichi)

埼玉大学・教養学部・教授

研究者番号：40241921

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円、(間接経費) 1,230,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間に北京、台北へ合計6度の海外調査を実施できた。また全媒体から収集した資料によって『アイ・ウェイウェイ読本』『アイ・ウェイウェイスタイル』と二冊の専門書を刊行することができた。ウェブアートサイトに連載している「アイ・ウェイウェイのことば」は10回目を迎え、担当者自身によるインタビューも2回掲載された。インタビューの一部はTBSニュースで放送された。また2013年日本公開のドキュメンタリー映画「アイ・ウェイウェイは謝らない」の字幕監修を担当した。またアイ・ウェイウェイのMVにも字幕を付けて公開した。アイ・ウェイウェイを中心に中国現代アートと政治がどのように関わっているかを解明できた。

研究成果の概要(英文)：In our research term, we could accomplish investigation in Beijing and Taipei six times. Through various media, we got a lot of material as to Ai Weiwei, other artist in China and so on, and we could have published two technical books :[Ai Weiwei Reader]and[Ai Weiwei Style]. This time, a serialization of[Ai Weiwei's words] in a web page of ART iT reaches tenth serialization, and the interview with Ai Weiwei done by person in charge of this study was appeared in web page of [ART iT] twice. TBS, a Japanese TV station, broadcast part of our interview with Ai Weiwei in a newscast program on 25th September 2013. The TV program name is [NEWS-23-CROSS]. I was also in charge of supervision of subtitles of the documentary film:[Ai Weiwei: Never Sorry]released in Japan in 2013. And I released some Music Videos of Ai Weiwei's works with subtitles. Focusing on Ai Weiwei, we were able to clarify the relationship between Chinese contemporary art and Chinese politics.

研究分野：芸術学

科研費の分科・細目：芸術一般

キーワード：中国現代アート 政治性 艾未未 アイ・ウェイウェイ 北京草場地 公民運動 公民社会 人権

1. 研究開始当初の背景

本研究の最終的な目的は中国現代アートの政治性について探求することである。従来現代アートにおける政治性についてはある程度論じられることがあっても、中心に据えた論は少ないと言える。また現代中国についても現代アートと政治は別個に論じられるのが常であった。本研究では政治性の問題を大胆に中心に据えて、両者の拮抗を探求していきたい。また中国現代アーティストの思考様式から行動様式に至るまで詳細に検討したい。本研究によって、中国現代アートの特質を明らかにし、末には中国文化の本質にまで迫っていきたい。(ここで美術と呼ぶのは近代までの平面、立体表現に限ったものを指し、現代アートとは思考や観念を含む全媒体表現である。)

これまで筆者は文革後今日に至る中国の前衛芸術、中国現代アートの歴史、毛沢東時代のプロパガンダ芸術、「芸術区」の調査を手掛けてきた。その結果、一般に捉えられる現代アートとの大きな違いを見出すことができた。それは各時代の中国美術、中国現代アートに反映された政治性の強さだった。さらに日本と中国の現代アートの比較研究にも着手した。ここには両者の類似点と相違点が見出された。政治と対峙する面で中国現代アートの前衛性は長く続き、しかも強い。

日中現代アートの類似はグローバル化による問題意識の共有に端を発しているだろう。そしてそれは両者に共通する社会状況、貧富の差の拡大、新たな階層の出現といった「資本主義の末期状態」に対する現代アートの反応でもある。だが中国の作品群に政治性が強く見られるのは「権力と資本の結託」という世界に例を見ない独占的資本主義の中で出口を見出そうとする作家たちの喘ぎでもある。本研究ではグローバル化と中国政治の問題が中国現代アートにどのような影響を及ぼしているかを考えたい。この研究は世界の現代アートをめぐる問題の一端を明らかにする。

「批判勢力がない」これが中国の現状をめぐり突出した問題であろう。つまり本来政治的な現場になくしてはならない対抗勢力が存在しない中国共産党独裁の現実では、それに代替するものが政治機構内に期待できない。新聞雑誌インターネット等マスコミも抵抗しようとはしているが、まだまだ力不足である。そのため「文化」が報道的となり、またアートが政治的にならざるを得なくなる。その結果、アーティストは強靱な批判精神を持たざるを得ず、また見方によれば直截的で浅薄な表現形態をとらざるを得なくもさせる。だがこうした状況が作家の精神の根底に

基礎体力をつけさせることは否定できない。本研究ではまず中国現代アートの反体制的傾向を析出していきたい。それは表現の自由と政治的圧力の実際を探る研究となり、より具体的事象の追及とならざるを得ないが、その点が逆に本研究の特異性ともなるだろう。

とはいえ革命を準備したかつての中国には精神的な厚みと批判精神は存在した。それは魯迅に代表される反骨の文学者と美術家たちである。魯迅コンプレックス、これが中国の現代アートに課せられた重く長い圧力にもなっていよう。それは正に独立した表現者であろうとして、実現できない苦悩をはらんでいる。何かに依拠する表現、その何かとは歴史的に言えば反・毛沢東時代あるいは毛沢東時代、近代あるいは前近代であろうか。諧謔性やパロディーに逃げることのない表現、変容することのない意志、渴望しながらも手に入れない純芸術的な要素、かといって前近代に遡るわけでもない新しい要素、これが中国現代アートにはまだまだ欠乏しているのではないか。

それは成熟や深化を待つことのない急速な状況の変化がそうさせているのかもしれない。そして敵が見えにくい現状も起因するだろう。こうした状況と毛沢東時代の体験と記憶が、一見似通ってはいるが文脈にズレを生じる中国と日本の現代アートの差の根幹にあることは間違いのないのではないだろうか。資本主義消費社会では売り物にならないものはないだろう。アートが商品化して金持ちの家を飾ることになることは実際には当然の結末といえるのかもしれない。しかし作家が市場とは全く関係ないところで作品をつくり続けている事実も確認したい。ポップな絵画が市場に溢れ、高値を更新する流れとは全く別に、作家の主体性や問題意識の際立った作品群も存在する。だがそれぞれの事象についてまだ十分に考え尽してはいない。

2. 研究の目的

本研究では自立した表現、また逆に事象に依拠した表現を追及していきたい。ただ日本の前衛が問題としたのは近代であり、中国の文革後の前衛が問題としたのは毛沢東時代であること、それが決定的な相違なのだろう。そして現在に対する抵抗を現在の内部で再編集する意味で、現実へ入り込むことが一つの方法なのかもしれない。以上の仮定の下で研究を進めていきたい。

こうした意味で艾未未(アイ・ウェイウェイ)が今も四川大地震災害の責任追及をし続けていることもアートではないにしろ、現実に入り込む意味で必要な行動だと言えるだろう。本研究ではこうしたアーティストの行動についても調査、インタビューなどを実

行し、解明に努めたい。

さらに 1960 年代以降の日本の前衛芸術とそれに関する榎木野衣や黒ダライ児らの評論が、現在の中国現代アートに対して一つの指針を示唆しているように思われる。さらに日本のみならず各地の資料を収集整理し、論の構築に役立てたい。

中国現代アートに課せられた重い過去とは中華伝統などという悠長で曖昧な歴史などではなく、イデオロギーを核にもつ「厄介な正義」、文化支配体制であろう。中国共産党の政策を支持し、正しさを裏付けるために用意され、今では御用芸術に成り下がった「社会主義リアリズム」がある。「社会主義リアリズム」はすでに体制に服従している。それらは体制側の補完物として権力者の「正義」を示すアリバイでしかないのではないか。こうした体制的な美術の状況についても詳細に検討し、問題点を具体的に析出していききたい。

嘗ては中国共産党が社会主義リアリズムを見出し、革命に援用した。いまは逆にこの社会主義リアリズムの批判性を資本家となった党に向けて発するべきではないだろうか。中国現代アート例えば楊少斌（ヤンシャオピン）は見事に社会主義リアリズムを解体してみせた。そして現代アートのコトバで作り直した。それは政治・経済に支配されるアートの位置さえ逆転させる。こうした中国現代アートの傾向を通史的に検討していききたい。

「紅色経理」（中国共産党社長）の関心は市場である。それは政治同様、力が支配する。全てが市場にのり、商品化する社会だからこそ逆にアートの存在意義と、作家の姿勢、思想が問われ、アートが鍛え直されるのではないか。前衛が際立つ結果を見せると考えられる。ここで重要なのはアートが何者にも従属しないということであろう。特に「政治体制」とは反対の側に位置する。さらに「商品化」をも拒否する。つまり現体制の権力と資本の集中した「共産党の独占資本主義」と対峙し続ける。現代アートは現状を批判できる立ち位置を先ずは維持し続ける必要があるだろう。こうした面から考えれば、例えば先の艾未未の行動はアーティストとしての立ち位置を確保する行為だと考えられる。こうした現実を批判的にとらえる姿勢についても詳細に検討を加えていきたい。そして中国現代アートの行動と思惟について総合的に把握したい。

以上、本研究の目的は体制的美術の動向も含む中国現代アートの政治性を探求することである。現実に入り込んだ作品と現実への

批判的態度、事象に依拠しない自立した表現を中心に、体制的或いは反体制的傾向を持つ作品を抽出検討していきたい。体制、反体制、非体制の総合的な政治性を追求することが本研究の特色の一つとなる。また時代は毛沢東時代まで遡り、さらに文化大革命以降の「星星画会」「85美術運動」「ポリティカル・ポップ・アート」「シニカル・リアリズム」「北京東村」「死体派」と芸術運動ごとに追及し、2000 年以降では「上海 M50」「北京 798」「草場地」などの「芸術区」を中心に調査、資料の収集を展開していきたい。毛沢東時代についてはポスター等視覚表象をはじめとする政治宣伝の具体的な資料を収集し、検討する。「星星画会」「85美術運動」では第一次天安門事件、第二次天安門事件、民主化運動との関係を明らかにする。90 年代以降については円明園、東村などアーティスト村の思想と行動を追及したい。また 2000 年以降も同様に 798、草場地、宋庄などの芸術区の形成と思惟について考察を加えたい。最終的には本研究によって中国現代アートの政治的特質を明らかにし、末には中国文化の本質にまで迫っていききたい。通史的で全媒体に及ぶ具体的で詳細な研究を特色の二とする。また日本の 1960 年代以降の前衛芸術との比較研究も視野に入れ、より客観的な研究を目指す。以上本研究の政治的内容はこれまでの中国、台湾、香港などの地域では政治的な障碍もあって実現できてはいない。また欧米においても基本的な情報の差異から深い研究はなされていないのが現状である。本研究が実現されれば、より深い中国現代アート研究が成され、世界文化の中の中国文化の特質が明らかとなり、より深化した文化交流、文化研究の礎になるものと確信している。

3. 研究の方法

本研究の目的は中国、台湾、香港等の現代アートの歴史、地域的差異を調査・研究し、中国現代アートの政治性の特質を析出していくことである。そのためにはまず建国以前 1930 年代から現在に至る中国都市文化に関する書籍・資料の収集、検討を行う。また毛沢東時代のプロパガンダ芸術についても調査、資料収集、検討を加える。また「星星画会」以降の現代アートの動きに関わる資料収集、聞き書きを加え、考察を行う。さらに現在の芸術区を実地調査し、資料を蓄積する。最終的には収集資料を元に政治性を軸に中国現代アート史を構築する。そのためには中国、台湾、香港等の研究機関における資料の閲覧、複写、整理が必要である。また研究者、キュレーター、アーティストに研究計画について指導、助言を受けるとともに、聞き書き

調査を実行する。

- (1) 本研究はその目的からして当該資料の十全を期さねばならないので、第一に当該資料の収集、整理を行う。
- (2) 本研究の全体的な計画は以下の通りである。

第一部 研究の主眼となる中国現代アートの政治性に係る資料の整理。建国以前の都市文化、近代美術に関わる文献、図像資料の収集整理。

第二部 延安時期から建国後、毛沢東時代の文化に関わる文献、図像資料の収集整理。

第三部 文革後現在に至る表現活動（演劇・映画・美術等）中国現代アートに関わる文献、図像、写真など視覚資料の収集、整理。上記の3段階の研究の取りまとめ。中国現代アート史を再構成する。

第四部 中国における中国現代アートの形成と状況について中国「北京・上海・広州」などを中心に調査、検討する。

第五部 台湾における中国現代アートの政治性について台湾「台北・台南・高雄」などを中心に調査、検討する。

上記の地域の現代アートの政治性について比較検討し、中国文化資源「革命伝統」「中華伝統」の差異についても検証する。

以上の内、平成23年度は第一部、二部の毛沢東時代と現代を中心に調査研究を進め、24年度以降は三部以降、総合媒体、都市調査を中心に研究を進める。

- (3) 中国現代アートの政治性に関わる文献、図像資料の収集、整理を行う。

平成23年度 国内、北京の研究者に研究計画について指導、助言を受ける。

東洋文庫、東京大学東洋文化研究所、早稲田大学図書館、同演劇博物館、東京藝術大

学図書館、中国研究所、京都大学人文科学研究所、天理大学図書館、愛知大学図書館、北海道大学図書館等、各研究機関所蔵の「上海などの1930年代都市文化、社会主義リアリズム絵画・彫刻」から「延安時期の毛様式生成」に関わる図像資料、文献の複写、整理。

上記研究機関および福岡アジア美術館等所蔵の建国以前の美術作品、カレンダー、ポスターなどの閲覧、複写、整理。

北京大学中文系・中国社会科学院文学研究所・中国芸術院話劇研究所、美術研究所・中央美術学院・中央戯劇学院など中国、北京の研究機関所蔵の関係文献の複写、整理。当研究に関して北京の研究者にレビューを受ける。

平成24年度以降 上海、広州、香港、台湾での調査研究。

上海市図書館、復旦大学図書館等の関係

文献の複写整理。

上海市美術館等のキュレーター、アーティスト、上海文化研究者に研究に関してレビュー（指導と助言、資料の紹介提供）を受ける。

4. 研究成果

2011年度から13年度まで「中国現代アートにおける政治性」をテーマに研究を進めてきた。2011年4月3日から6月22日、艾未未が逮捕投獄される事件が起きた。筆者はこの前後を含め、2009年から13年まで7回にわたって艾未未と面談し、3回インタビューを試み、公表してきた。この間大量の翻訳、論文を発表し、12年には400p近い研究書『艾未未読本』を翻訳執筆編集し上梓した。また最終年度内の2014年2月には2冊目の艾未未研究書『アイ・ウェイウェイ スタイル』を刊行できた。ここで明らかになってきたのは艾未未の作品の多くには社会問題が常に裏付けとして存在することだった。それは2008年の北京オリンピック、四川汶川大地震、から顕著なものとなっている。特に四川汶川大地震以後、艾未未が、手抜き建築が原因で倒壊した校舎の下敷きになって亡くなった子供たちの名簿制作、実地調査した時点から始まっている。

例えば鉄筋を真っ直ぐに伸ばした作品、「あの子はこの世界で7年間幸せに過ごしたのだ」という犠牲者の母親のこぼれ話を3千以上の通学鞆でつくった作品、また通学鞆で蛇の形につくった作品（蛇は再生の意味を持つ）は追悼の意味と地方政府の腐敗が原因で亡くなった「事件」への憤怒が込められている。また不法入獄中、2人の看守に24時間監視された様子を再現したジオラマ作品は2013年ヴェネツィアで展示されたし、再現映像はミュージックビデオ「シャーボーイー」でユーチューブに公表された。出獄後政府は猥褻罪や脱税罪など様々な方法で艾未未の社会的信用の墜落を狙ったが、それを公民の支持で乗り切っている。艾未未は2013年5月香港で「粉ミルクの国」を発表。1815缶の粉ミルク缶で横10メートル縦8メートルの中国地図をつくっている。2008年には中国でメラミン入り毒ミルク事件が起き、6人の幼児が死亡している。また腎臓結石など30万人に障害が出たという。ソーシャルネットワークキングサービスを駆使した艾未未の発言は人権問題、言論表現の自由（インターネットの自由化）、司法の独立、公民社会の成立と公民の権利、権力と資本の癒着と腐敗から環境問題、食品の安全性、少数民族の問題、児童や女性への虐待問題へと多岐にわたる。だがいずれの問題も現代中国の抱える重要な問題であり、結果的には弱者迫害へ

と連鎖する。そして全てが弱肉強食、原始的な現政権批判へと繋がっていく。

社会に責任を持ち、変革を促していく態度は公民社会の成立をリードするものではないか、と仮定した。研究期間中には中国報道の第一線に立つジャーナリスト古畑康雄、麻生晴一郎、ふるまいよしこ各氏にも専門的知識の提供を受け、SNSによる公民社会の成立、また教育問題や農村の貧困を考える NGO による活動など、探求すべき方向性も見えてきた。今後は現在の時点から遡上する方法で現代アートと公民社会の成立について考察を加えていきたい。これまで筆者は文革後今日に至る中国の前衛芸術、中国現代アートの歴史、毛沢東時代のプロパガンダ芸術、「芸術区」の調査、現代アートにおける政治性の問題を手掛けてきた。その結果、一般に捉えられる現代アートとの大きな違いを見出すことができた。それは各時代の中国美術、中国現代アートに反映された政治性の強さだった。さらに日本と中国の現代アートの比較研究にも着手した。ここには両者の類似点と相違点が見出された。

政治と対峙する面で中国現代アートの前衛性は長く続き、しかも強い。日中現代アートの類似は国際化、グローバルスタンダードへの認識による公民の問題意識の共有に端を発しているだろう。そしてそれは両者に共通する社会状況、貧富の差の拡大、新たな階層の出現といった「資本主義の末期状態」に対する現代アートの反応でもある。中国の作品群に政治性が強く見られるのは「権力と資本の結託」という世界に例を見ない独占的権力に対する公民の反撃でもある。今後はグローバル化と中国の支配体制、高度成長の問題が中国現代アートと公民社会にどのような影響を及ぼしているかを考えたい。今後の研究では世界の現代アートをめぐる問題の一端を明らかにする事ができるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 10 件)

艾晓明:談牧陽一: 訳解説: 「裸は抵抗の印だ」『埼玉大学紀要 教養学部』第 49 巻(第 2 号) 2013 年 pp129-150 2014 年 3 月

牧陽一「艾未未アイ・ウェイウェイ 2013 勇気を蓄積する」『埼玉大学紀要 教養学部』第 49 巻(第 1 号) 2013 年 pp209-222 2013 年 9 月

牧陽一「現代中国のアーティスト・艾未未(アイ・ウェイウェイ)『アステイオン』077 2012 年 11 月 pp174-190

牧陽一「試論 左小祖咒 2 「万事如意

2010」訳解説」『埼玉大学紀要 教養学部』第 48 巻(第 1 号) 2012 年 2012 年 9 月 pp245-258

牧陽一「試論 左小祖咒 「廟会之旅」から中国の社会問題を読む」『埼玉大学紀要 教養学部』第 47 巻(第 2 号) 2011 年 2012 年 3 月 pp299-308

牧陽一「艾未未 2011」『埼玉大学紀要 教養学部』第 47 巻(第 1 号) 2011 年 2011 年 9 月 pp179-192

〔学会発表〕(計 2 件)

牧陽一「艾未未読本」『Ai Weiwei: Never Sorry』について 中国文芸研究会 2013 年 5 月例会 2013 年 5 月 26 日 関西学院大学梅田キャンパス 2005 号室

牧陽一「艾未未アイウェイウェイとボディーメディア、自由空間」現代中国学会 2012 年 10 月 21 日(日)一橋大学

〔図書〕(計 2 件)

艾未未著牧陽一編著訳『アイ・ウェイウェイスタイル』(編著、勉誠出版 2014 年 2 月) 256p

艾未未著牧陽一編著訳『艾未未アイウェイウェイ読本』(編著、集広舎 2012 年 5 月) 386p

〔その他〕(計 12 件)

ホームページ等

艾未未/牧陽一談 牧陽一訳「アイウェイウェイ艾未未インタビュー (2013 年 9 月)」 Web ARTiT2013/12/11

艾未未著 牧陽一訳解説「アイウェイウェイ艾未未のことば 7: 老いぼれた雄」「勇気を蓄積する」 Web ARTiT 2013/7/17

艾未未著 浅見洋二/牧陽一訳解説「アイウェイウェイ艾未未のことば 6: 哀悼」「四川汶川大地震から 5 年」 Web ARTiT 2013/4/17

艾未未著 牧陽一訳解説「艾未未のことば 5 ナスはナスだ」訳編集「思索と行動の全てが作品なのか」 Web ARTiT12/12/19

牧陽一「艾未未 インタビュー」(2012 年 9 月) Web ARTiT12/10/10

艾未未著 牧陽一訳解説「艾未未のことば 4 生命の中の一秒は全て同じだ」訳編集「写真から映像へ」 Web ARTiT12/06/27

艾未未著 牧陽一訳解説「艾未未のことば 3 臭気ただよう時代」訳編集「艾未未・歛席」 Web ARTiT12/03/28

艾未未著 牧陽一訳解説「艾未未のことば 2 1001 人現代の《童話》」訳編集「ドキュメンタからの艾未未」 Web ARTiT11/12/26

艾未未著 牧陽一訳解説「艾未未のことば
1 艾未未香港対話」訳編集「艾未未事件の
核心—序文に替えて」Web ARTiT11/10/25
宮本真左美 牧陽一「艾未未インタビュー」
(2010年9月15日)Web ARTiT11/07/04

6. 研究組織

(1)研究代表者 牧 陽一 (MAKI Yoichi)
埼玉大学・教養学部・教授
研究者番号：4 0 2 4 1 9 2 1

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：